

## 令和4年度 体力向上における各校の成果(小学校)

鯖江市 教育委員会

No	学校名		成 果
1	惜陰	小学校	<p>コロナウイルス感染症対策を行いながらの実施ではあったが、運動量の確保、運動の楽しさの実感を目指した授業展開や、体育委員会の取り組みの充実などを図ったことから、学校評価において、1学期は96.3%、2学期は95.0%の児童が体力作りに一生懸命に取り組んでいると回答した。</p>
2	進徳	小学校	<p>マラソン大会に向けて、業間運動を持久走に絞ったことにより、試走時より本番タイムが伸びた児童は90%を超えた。 活動に対し、しっかりと自分のめあてをもって取り組むことにより、振り返りの感想では、めあてに対して自分がどう考えて動いたかがわかるものが増えた。</p>
3	鯖江東	小学校	<p>教具を工夫したり教具の数を増やしたりすることが、一人一人の運動時間の確保につながった。 学年で同じ進め方、同じ学習カードを使うことで、全児童に充実した学習機会を提供できた。ICTを活用することで、児童が機器を使いながら、主体的に学ぶ様子が見られた。</p>
4	神明	小学校	<p>パワフル体操(3種類)を作成したことで、楽しく業間運動に取り組む児童が増えた。 鯖江市連合体育大会では、15種目中14種目で入賞した。4×100mRでは6年女子が1位、6年男子が3位に入った。</p>
5	鳥羽	小学校	<p>コロナ禍の影響で業間運動の体力づくりの回数は減っているが、少ない回数でも持久走や縄跳びをがんばっている姿が見られた。 (学校評価「体力づくりに精一杯取り組めた」児童約94%) また、多くの学年で学級ごとの体育をすすめた結果、活動に積極的に取り組む児童が増え、個々の運動量も増加した。 体力テストの県平均を上回った種目が、増加した。</p>
6	中河	小学校	<p>一年間業間運動(週2回)を行うことができた。感染状況を見極め、中でなわとびを行う学年と、外で持久走を行う学年にわけ、しっかりと体力アップに取り組むことができた。 各学級にソフトバレーボールを配付し、休み時間にドッジボール等をして遊べるような環境をつくり、授業以外でも投運動の能力向上を目指すことができた。 マラソン大会や、なわとび大会を通しそれに向けて目標をもち運動に取り組むことができた。</p>
7	片上	小学校	<p>体力テストの結果では、ボール投げにおいて男子は4・6年、女子は4年以上全ての学年で県、市平均値を上回る結果となっている。授業での投球動作の習得以外にも遊びの充実を図って外用ボールなどを充実させたことなどから、児童が遊びの中でボールを投げる活動に親しんでいったことが要因の一つなのではないかと考えられる。 今年度はSAQトレーニングや長縄跳びの追加による業間運動の内容の多様化、縦割り班を活用した体育活動の充実などを行った結果、全校児童の95%以上が「体育の授業で楽しく運動できた」(校内アンケートより)と感じており、児童が運動に親しめる環境を整えていくことができた。 また、コロナ禍で徐々に実施した水泳学習に地域人材を活用したことで、泳力に個人差がある中でも指導が充実し、水への恐怖感が少なくなったり、水泳学習を楽しみに思う児童が増加したりするという実態が見られた。</p>
8	立待	小学校	<p>今年度も全校で業間運動に継続して取り組んだこと、各学年でマラソン記録会や器械運動発表会を実施したことで、めあてを持って運動に取り組む児童が見られた。また、毎学期末に児童に対して行うアンケートの「体育の授業はめあてをもって一杯取り組みましたか」という質問に対して、肯定的な回答がすべての学期で約90%という結果となった。保護者アンケートにおいては、「運動や体を動かすことを好んでいるか」という質問に対して約80%の肯定的な回答を得られた。</p>
9	吉川	小学校	<p>学習カードやICT機器を活用したりグループ活動を取り入れたりすることで、児童同士の関わり合いが増え、互いにアドバイスしあう場面が多く見られた。後期の学校評価アンケートにおいて、約9割の児童が「めあてをもって活動できた」と回答した。 ボール遊びや鉄棒遊びなど、全体的に運動遊びに取り組む児童が多く見られた。特に男子はドッジボールで遊ぶ児童が多く、投力が高まった。体力テストのソフトボール投げにおいて、市や県の平均を上回った。 体育に関する情報を定期的に発信することで、体育の授業づくりに不安をもっている教員の負担感を軽減することができた。 養護教諭と連携して健康管理への意識を高めてきたことで、水分補給やマスク着用などの自分の健康を守るための行動が習慣づいた。</p>

10	豊	小学校	<p>感染症対策を行いながらの実施ではあったが、体育の授業における運動量の確保、運動の楽しさを実感できる授業展開を目指した。</p> <p>また、業間運動では児童が目標を設定して取り組むなどの工夫により、学校評価において95%以上の児童が「体力づくりでは、めあての達成をめざして一生懸命取り組んでいる」と回答した。</p>
11	北中山	小学校	<p>毎週火・木曜日の業間に持久走やなわとび運動を行った。</p> <p>また、体育の授業の最初に持久跳びの時間を設け、学年目標を設定することによって児童の意欲の向上を図った。その結果、持久跳びの学年目標を達成した人数は全校児童123人中94人であった。</p>
12	河和田	小学校	<p>体育科の授業では、学習カードを使用することによって自分に合っためあてを見付けさせ、課題意識をもって取り組むことができた。</p> <p>マラソンカードを用いたことで、休み時間にランニングを行う児童が多くなった。</p> <p>なわとびカードを用いたことで、各自が目標をもって取り組むことができた。また飛び級で次のカードに進む児童もあり、意欲的に取り組めた。</p>